

研究結果報告書

本研究のテーマは「絶望への反抗—魯迅と大江健三郎との文学世界—」である。

この研究課題の過程において、私は主に魯迅と大江との作品における相似点と相違点を掘り出して、さらになぜそのような相似点と相違点が生まれたのか、という創作動機を検討した。

この一年あまりの研究を通して、魯迅と大江との「絶望への反抗」という課題の比較研究によって、次のような相似点と相違点が明確になった。

(1) 魯迅と大江は異なる時代に生きていながら、同一の民族精神の振興と自己救済の使命を感じていたに違いない。例えば、魯迅の『阿Q正伝』と大江の『セヴンティーン』における、二人の主人公は、ともに真実の失敗、幻想、虚幻の精神勝利、という心理のプロセスを表している。ところが、魯迅の『阿Q正伝』は、阿Qの生涯という形を借りて、中国の社会と伝統文化を再現したのに対し、大江の『セヴンティーン』は、「おれ」の短い一生という形を借りて、日本の戦後民主主義の挫折と伝統文化を表現したと言えよう。言い換えれば、二人の創作意図は、それぞれ中国人と日本人との魂を描き、社会に警鐘を鳴らして「国民性の改革」を図ろうとするところにあったのではないだろうか。

(2) 魯迅と大江は、ともに「愚弱な国民」を批判し、それによって「民衆の精神を改革する」ことにある。即ち、二人の作家はともに絶望から希望を展望することにあるが、魯迅の作品は現実の真っ暗な闇を提示したのに対して、大江の作品は、真っ暗な空に微かな星が輝いていることを示唆している。

以上のような研究結果によって、魯迅と大江との文学世界は、ともに「絶望への反抗」という主題を表現するところに共通していることが確認されたのである。これら研究結果を基に、東北亜国際会議及び中日学術討論会で口頭発表を行った。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

(1) 魯迅と大江健三郎文学中的审美思想——以“狗”和“羊”为隐喻。

2011年東北亜国際会議，西安交通大学。

(2) 民族灵魂自省与自救的呐喊——大江健三郎《十七岁》和鲁迅《阿Q正传》论，2012年中国当代文学和陕西文学创作——中日学術討論会，西北大学文学院

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)